



お互いの支え合いでつくる 地域の居場所づくり

～地域お茶の間創造事業～

昨年7月にスタートした地域お茶の間創造事業。
現在、7つの地域でモデル事業として進められています。

高齢化が進む中で

全国的に高齢化が進む中、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増え、地域とのコミュニケーションが少なく、孤立する高齢者も増えてきています。市の高齢化率は全国平均を上回る約26%で、市民の4人に1人が65歳以上という状況です。

しかし、65歳以上が「高齢者」と分類され、福祉関連のサービスが受けられるようになる一方、元気で活発な高齢者はたくさんおられます。こうした元気な高齢者に、地域を支える側として活躍していただくことが、安心な地域づくりにつながることを期待されています。

「地域お茶の間創造事業」とは

できることをサービスとして提供し、支援が必要な高齢者が身近なところでサービスを受けられる、家族が集うお茶の間のような居場所をつくることを支援するのが「地域お茶の間創造事業」です。

たとえば、高齢の方が車やバスを使わなくても気軽に自由に集うことができる地域の集会所や空き家などを拠点として、同じ趣味や活動を行う人が集まる「居場所づくり事業」

と、その居場所を拠点として高齢者や障がいのある方などを訪問し、サービスを提供する「ボランティア拠点事業」に対し補助を行います。

また、地域課題の把握、整理、事業の立案などは、米原市社会福祉協議会と市も地域と一緒に進めています。

なぜ「居場所づくり」なのか

核家族化や社会の利便性が高まるにつれ、地域でのつながりが薄れ、孤独感から普段の生活に不安を感じる高齢者が増えています。孤立を防止、住み慣れた地域で安心して生活していくために、地域で顔の見える関係をつくることの大切さが、今見直されてきているのです。

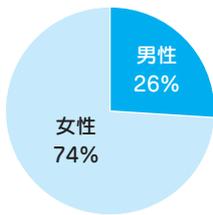
平成25年度モデル事業実施団体

団体名	地域名
サンダーバード+福祉委員	上板並
野一色みまもりたい	野一色
能登瀬お茶の間クラブ	能登瀬
生活支援ボランティアグループ	天満
河内区福祉委員会	河内
寺倉区	寺倉
枝折おたすけ隊	枝折

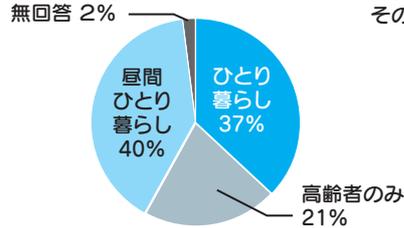
モデル地域5つの調査結果【有効回答者126人】

※2地域は集計中です。

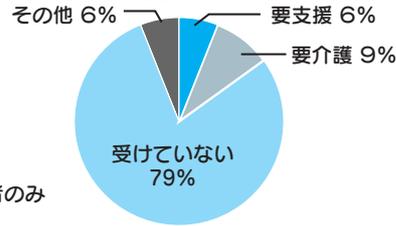
◆性別



◆世帯の状況



◆介護認定の状況



◆日常生活で困っていること、不安に感じていること、利用したいと思うサービスなどの意見

- ・今は大丈夫でも将来動けなくなったときのことを考えると不安になる。
- ・話し相手がなくてさびしい。食事を1人するのがさびしい。
- ・昼間に1人のときに体調が急変したりすることが不安。誰かが訪問してくれるとありがたい。
- ・河川の氾濫、山崩れが心配。災害時に1人のとき、どう対応すればよいか不安。
- ・大雪だと気分が落ち込む。雪で屋根が壊れないか心配。雪が降ってもほったらかしにしている。
- ・車を運転するので事故が心配。交通手段がなくなる不安がある。将来的には買い物や通院などの支援が必要だと思う。
- ・サービスを受けるより、支援する側として自ら出ていきたい。人との交流で話すことが何よりの気晴らしになる。

ニーズ調査の結果

地域お茶の間創造事業を実施するに当たり、地域に何が必要なのかを把握するため、75歳以上のひとり暮らし高齢者、高齢者のみの世帯、ご家族が仕事などで昼間ひとりに

なる高齢者の方に聞き取り調査を行いました。こうした高齢者のニーズに対し、地域ではどのような取り組みをすることができるのか検討を進めています。



2つの地域でオープンした「お茶の間」を紹介します



能登瀬



お茶の間カフェ

1月20日、能登瀬会館で「お茶の間カフェ」がオープンし、地元の高齢者ら約20人が集まりました。ここでは動くことも運動のうちと飲み物はセルフサービス。各自コーヒーやお茶を飲みながら会話を楽しみました。オープン初日は、豚汁や炊き込みご飯のふるまいのほかマジックショーで会場が盛り上がりました。

地元自治会の役員が中心となった「能登瀬お茶の間クラブ」の代表古野さんは「今後の運営はみなさんと作っていきたい。買い物の手伝いや病院送迎もできるようにできれば」と話しました。

INFO

- ▶ 場 所 能登瀬会館（能登瀬751-2）
- ▶ 日 時 月、木曜日 10時～14時頃まで
*毎月第1木曜日には手作りパンの販売も
- ▶ 利用料 1回50円、飲み物各100円



上板並



みんなの家 EH
(Everybody's house)

12月2日、地域自主防災隊サンダーバードと福祉委員が中心となって地域の空き家を改修した「みんなの家」がオープンしました。カップ麺、飲料水などが備蓄され、災害時の避難場所としても利用できます。初日は、高齢者35人がいりりやこたつを囲み、温かいカレーやいも煮汁、焼き魚を味わいました。

リーダーの伊賀並さんは「続けていくことが大切。当面は月1回総菜販売を予定している。配食にするか、週に何回オープンするかなど相談して決めていきたい。除雪や夏場の草刈りの手伝いも予定している」と話しました。

INFO

- ▶ 場 所 上板並201番地
- ▶ 要望に応じて
月1～2回オープン
- ▶ 利用料 1回300円



お問い合わせ 健康福祉部 福祉支援局(山東庁舎) ☎55-8110 📠55-8130